

## 知財教育の全学必修化の実質的取り組みと一考察

○李鎔璟、北村真之、高橋正勝、阿濱志保里、木村友久(山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター)

### 1. はじめに

日本では、バブル崩壊後落ち込んだ国際競争力の再建策の一つとして、「知的財産立国」の政策が打ち出され(2002年)、以降大学においても知的財産に関する専門知識やスキル、或は知的財産マインドを持った人材輩出が求められるようになってきている<sup>1)</sup>。そのような中で高度な専門人材に関しては東京工業大学や金沢工業大学、東京理科大学等に知的財産専門職大学院(学校教育法第99条第1項に基づく)が設置され、弁理士等の専門人材の輩出に寄与している。一方で、経済社会を支える知的財産マインドを持った裾野人材の輩出については、必ずしも十分な取組みはなされていないのが現状である。学部や研究科単位で選択科目として断片的に知的財産教育を提供している大学、例えば、大阪大学の理工系に特化した実践的知的財産講座<sup>2)</sup>、などはあるが、必修科目のように全ての学生が知的財産教育を受ける機会を提供している大学はこれまでになかった。

一方、山口大学では、平成15年知的財産本部の設置、平成17年技術経営研究科の設置以降、学生を対象とした特許情報インストラクター講習会、現代GPにおける理工系学生向けや教職を目指す学生への実践的知財教育、全学部生向けの共通教育選択科目「知財入門」の開発など、知財教育の実践ノウハウを蓄積してきた。また、特許公報のCSV取得機能を持たせた山口大学特許検索システム(YUPASS)の独自開発を行い、全教職員と学生に対し、学内外からアクセスできるサービスを実現している。このような背景を基に、山口大学では全国初となる取り組みとして、2013年4月より共通教育課程において知財教育を必修化した。この取り組みの体制及び必修化の効果(6月時点での知見)については報告済みである<sup>3),4)</sup>。本稿では、実際にどのような内容を取り組んでいるのか具体的に紹介すると共に、講義実施担当者の一人として一考察を示す。

### 2. 共通教育課程における全学必修化の知財教育科目の概要

対象者は1年生全員(約2000名)、科目名は「科学技術と社会～〇〇学部生のための知的財産入門～」、90分×8回の1単位、クラスは全部で11クラス(基本は学部毎に編成)で一クラス約120名～230名となっている(図1)。教材は、基本的には全クラスで共通のものを使用しているが、学部の特性に応じた補足を適宜追加等している。例えば、教育学部では“知財教育法”、医学部では“医学部と知財”、経済学部では“商標戦略”など。講義の目的は、最終的に受講者が、(1)

| 科目名                            | 開設期              | 曜日・時限         | 対象学生                    | 履修見込者数(実績) |
|--------------------------------|------------------|---------------|-------------------------|------------|
| ① 科学技術と社会<br>(教育学部生のための知財入門)   | 前期Q1<br>(4～5月)   | 金曜日<br>5,6時限  | 教育学部(学教(教科)・実践・教育)      | 120(126)   |
| ② 科学技術と社会<br>(農・獣医学部生のための知財入門) | 前期Q1<br>(4～5月)   | 金曜日<br>5,6時限  | 農学部・共同獣医学部              | 130(133)   |
| ③ 科学技術と社会<br>(理学部生のための知財入門)    | 前期Q1<br>(4～5月)   | 金曜日<br>7,8時限  | 理学部(数理・生化・地球) ※物性は2年次履修 | 220(173)   |
| ④ 科学技術と社会<br>(経済学部生のための知財入門)   | 後期Q3<br>(10～11月) | 木曜日<br>5,6時限  | 経済学部(001～220)           | 220(219)   |
| ⑤ 科学技術と社会<br>(工学部生のための知財入門)    | 後期Q3<br>(10～11月) | 木曜日<br>7,8時限  | 工学部(機械・社建)              | 170(173)   |
| ⑥ 科学技術と社会<br>(工学部生のための知財入門)    | 後期Q3<br>(10～11月) | 木曜日<br>9,10時限 | 工学部(応化・電気)              | 170(179)   |
| ⑦ 科学技術と社会<br>(医学部生のための知財入門)    | 後期Q3<br>(10～11月) | 金曜日<br>3,4時限  | 医学部(医学・保健)              | 190(233)   |
| ⑧ 科学技術と社会<br>(教育学部生のための知財入門)   | 後期Q3<br>(10～11月) | 金曜日<br>5,6時限  | 教育学部(学教(教科除く)・健康・総文)    | 120(128)   |
| ⑨ 科学技術と社会<br>(経済学部生のための知財入門)   | 後期Q4<br>(11～2月)  | 木曜日<br>5,6時限  | 経済学部(221～)              | 165        |
| ⑩ 科学技術と社会<br>(工学部生のための知財入門)    | 後期Q4<br>(11～2月)  | 木曜日<br>7,8時限  | 工学部(知能・感性・循環)           | 190        |
| ⑪ 科学技術と社会<br>(人文学部生のための知財入門)   | 後期Q4<br>(11～2月)  | 木曜日<br>9,10時限 | 人文学部(人社・言語)             | 185        |

図1 共通教育における知財教育必修科目の実施概要

知的財産の全体像を理解すること、(2)レポートや論文作成時に必要な知的財産の知識など身近な事例をテーマに初歩的な知的財産対応能力を形成すること、(3)社会活動における知的財産の価値を実感すること、と設定している。そのため、教員からの一方的な知識の教授にとどまらず、講義ではワークシートやペアワーク、毎回の小レポートなどを使ったアクティブラーニング的な要素も取り込んでいる。教材等の例を図2に示す。成績評価は、試験50%、小レポート40%、ワークシート10%を組み合わせて総合的に行っている。



図2 教材等の例と講義風景

### 3. 授業評価と今後に向けて

図3に、Q1の教育学部を対象としたクラスにおける学生による授業評価結果を示す(5段階評価:5. そう思う 4. ややそう思う 3. どちらとも言えない 2. あまりそう思わない 1. そう思わない)。概ね、担当教員が授業実施上工夫した点、例えば、話し方、専門用語の説明、教材の効果的使用、質問対応などについては高い評価となっている。一方で、学習目標の達成度、理解度、満足度については、平均よりやや高い評価であった。時間外学習については宿題やレポートをほとんど課していないので低い評価となっている。より学生の理解度、満足度を向上させるためには、日常生活のより身近なところで起こり得る知的財産問題や実際に実社会で起こった事例・判例等の題材の充実化を図り、且つ、分かり易い説明をしていくなどの工夫が必要と考える。

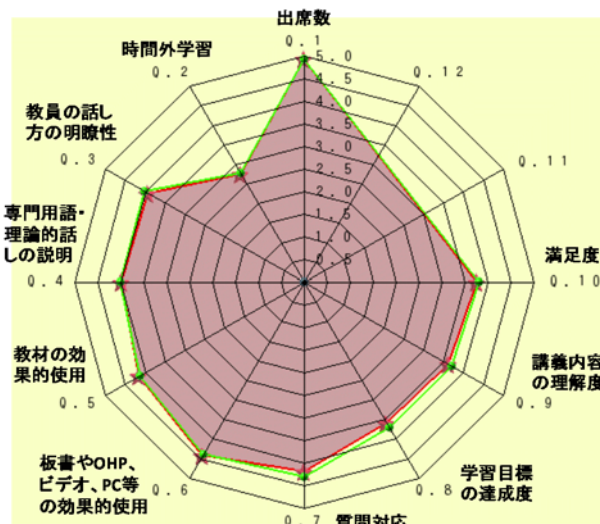


図3 学生授業評価 (Q1 教育学部)

1) 知的財産戦略大綱 (2002.7.3)、知的財産基本法 (2002.4 公布、2003.3 施行) . 2) 「理工系学生のための知的財産教育講座の在り方」, 青江秀史・吉田悦子 (大阪大学) 他, 産学連携学会第 11 回大会, 講演予稿集, 0621B0900-3, p165. 3) 「共通教育での知財教育の全学必修化による効果」, 木村友久・李鎔環・阿濱志保里 (山口大学) 他, 産学連携学会第 11 回大会, 講演予稿集, 0621B0900-4, p166-167. 4) 「山口大学における知財教育の取組み体制」, 木村友久・李鎔環・阿濱志保里 (山口大学) 他, 産学連携学会第 11 回大会, 講演予稿集, P-04, p276.